

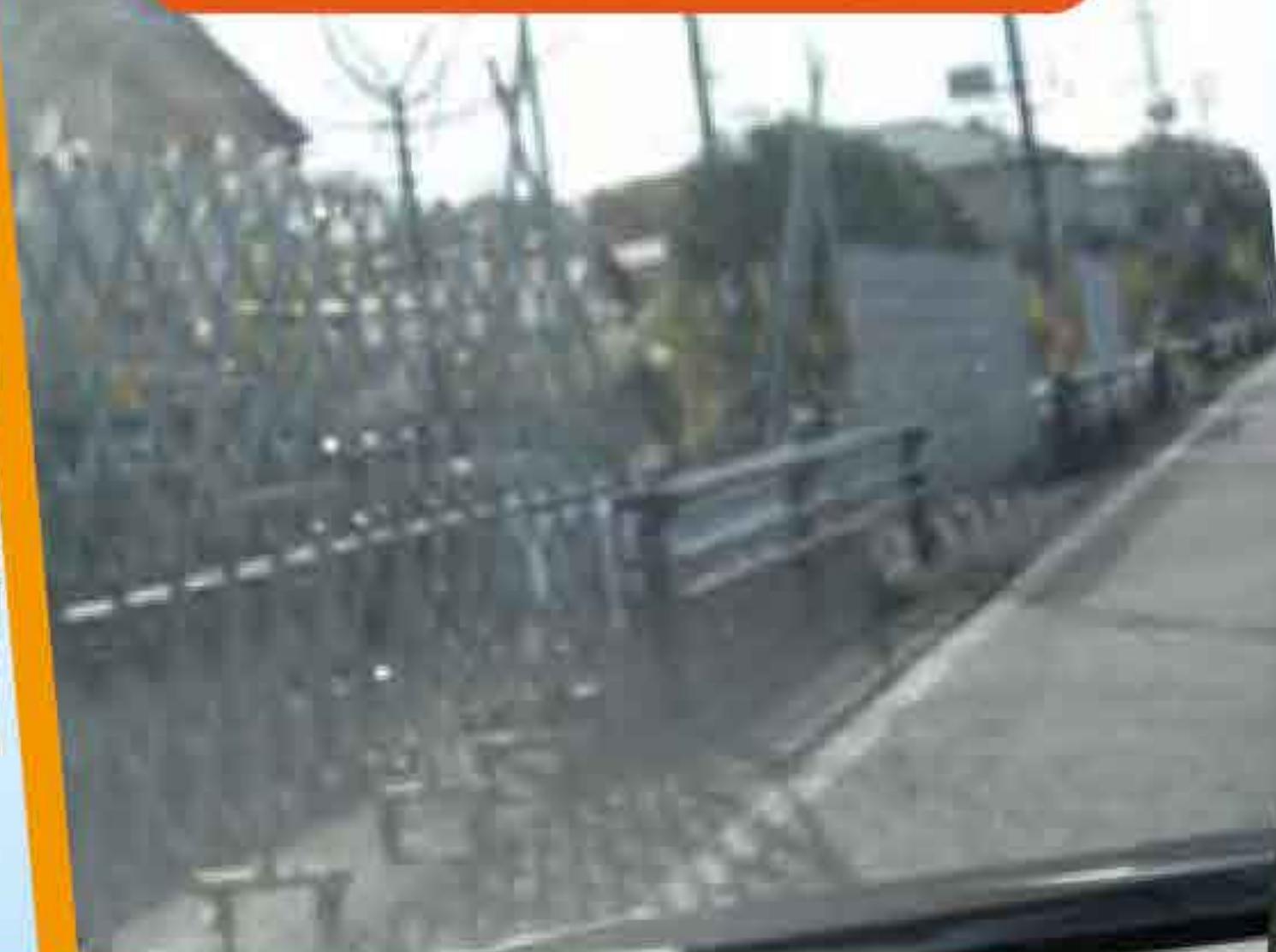
共生地域創造財団は、グリーンコープ・ホームレス支援全国ネットワーク、生活クラブが連携して、被災地の復興支援などに取り組みながら共生地域の創造をめざす団体です。

# 「3.11」東日本大震災から9年

2014年11月  
富岡駅構内



2014年4月6号線沿い  
立ち入り禁止の柵



2020年2月国道6号線沿い  
今も立ち入り禁止柵が!!



2014年11月富岡町  
人は立ち入れない



2020年2月富岡町  
今なお、立ち入り禁止



2011年3月11日午後2時46分、東

日本を襲った地震・津波・原発事故。未曾有の被害を受けた被災地は懸命に復興をめざして頑張っています。9年という時は被災地をどう変えたのでしょうか。

事故を起こした東京電力福島第一原子力発電所は、福島県大熊町と双葉町のエリアにまたがっています。その側を走っているのが国道6号線という日本の動脈と言える基幹道路です。事故当時しばらくは、一般車両はこの道路を通過できませんでした。今でも帰還困難区域は二輪車での通行はできません。その周辺の事故当時と現在の様子を見てみましょう。

2020年2月  
浪江駅から浪江ICに向かう  
途中の空間放射線量



2019年12月富岡町  
今なお、放置されたままの  
家屋とプレコンバック



# 東日本大震災、あの原発事故から9年、 グリーンコープは被災地に寄り添い、支援を続けています。

福島

東京電力福島第一原発事故による放射能の影響で避難を余儀なくされた福島県の各地域。9年が経過し、故郷を想う人たちのパワーによって、復興が進みつつあります。グリーンコープが出会い、支援を継続している地域の様子、そして組合員との交流などの取り組みをとおして連帯が深まっています。

## \* 南相馬 (南相馬避難勧奨地域の会)

- ・2015年にグリーンコープから放射能測定器を寄贈後、組合員との訪問・交流を行っています。
- ・会が取り組んでいる「年間20ミリシーベルト避難基準撤回訴訟」は、自分たちのためだけでなく、これは全国の問題であるとして、8行政区808人の住民が中心となっています。
- ・この訴訟においては、「ふくいち環境モニタリングプロジェクト」のメンバーが放射能測定器を活用し、避難区域指定解除された区域内で土壤汚染状況を継続的に計測しています。結果を住民に媒介、同時に訴訟にも活用しています。
- ・地域の特産の山菜、きのこ類は、今なお放射線量が高く、山に入ることすらできない状況です。
- 旧避難指示区域の震災前の人ロ 14279人
- 旧避難指示区域への帰還者的人ロ 4207人  
(2019年12月31日現在)



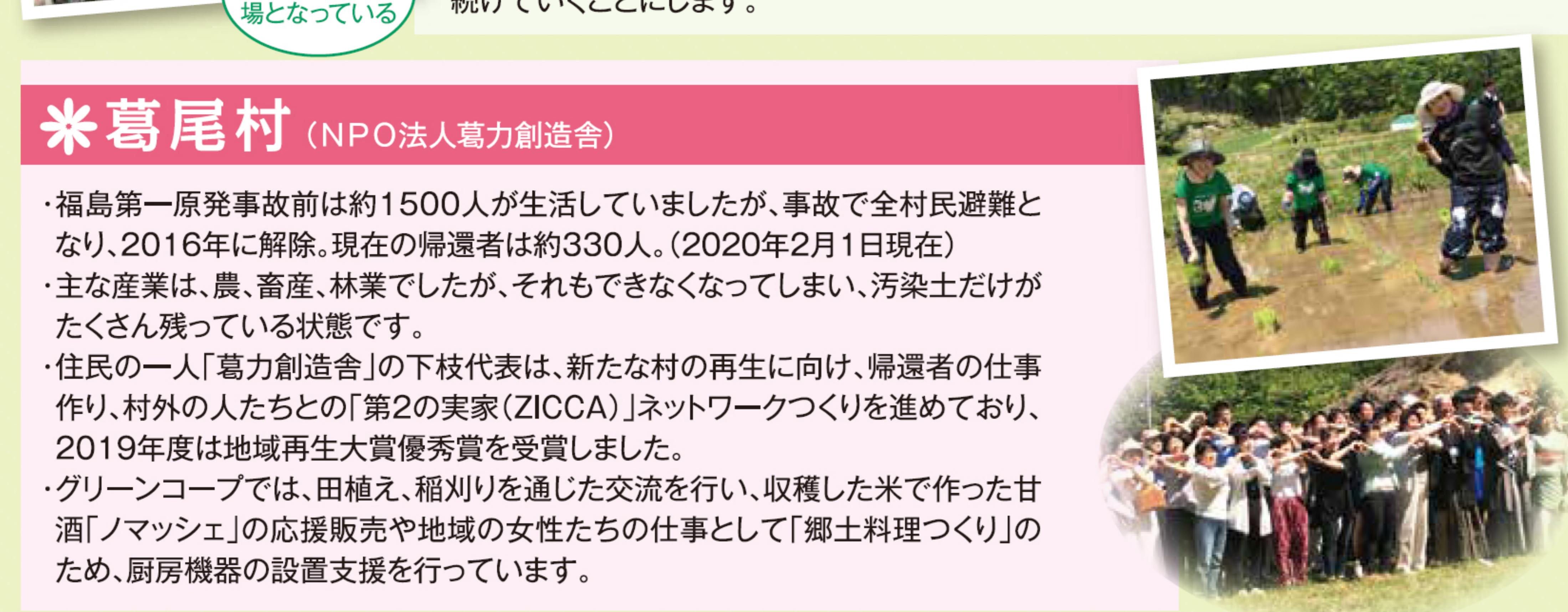
GC共同体理事による視察・交流



地域の  
コミュニティーの  
場となっている

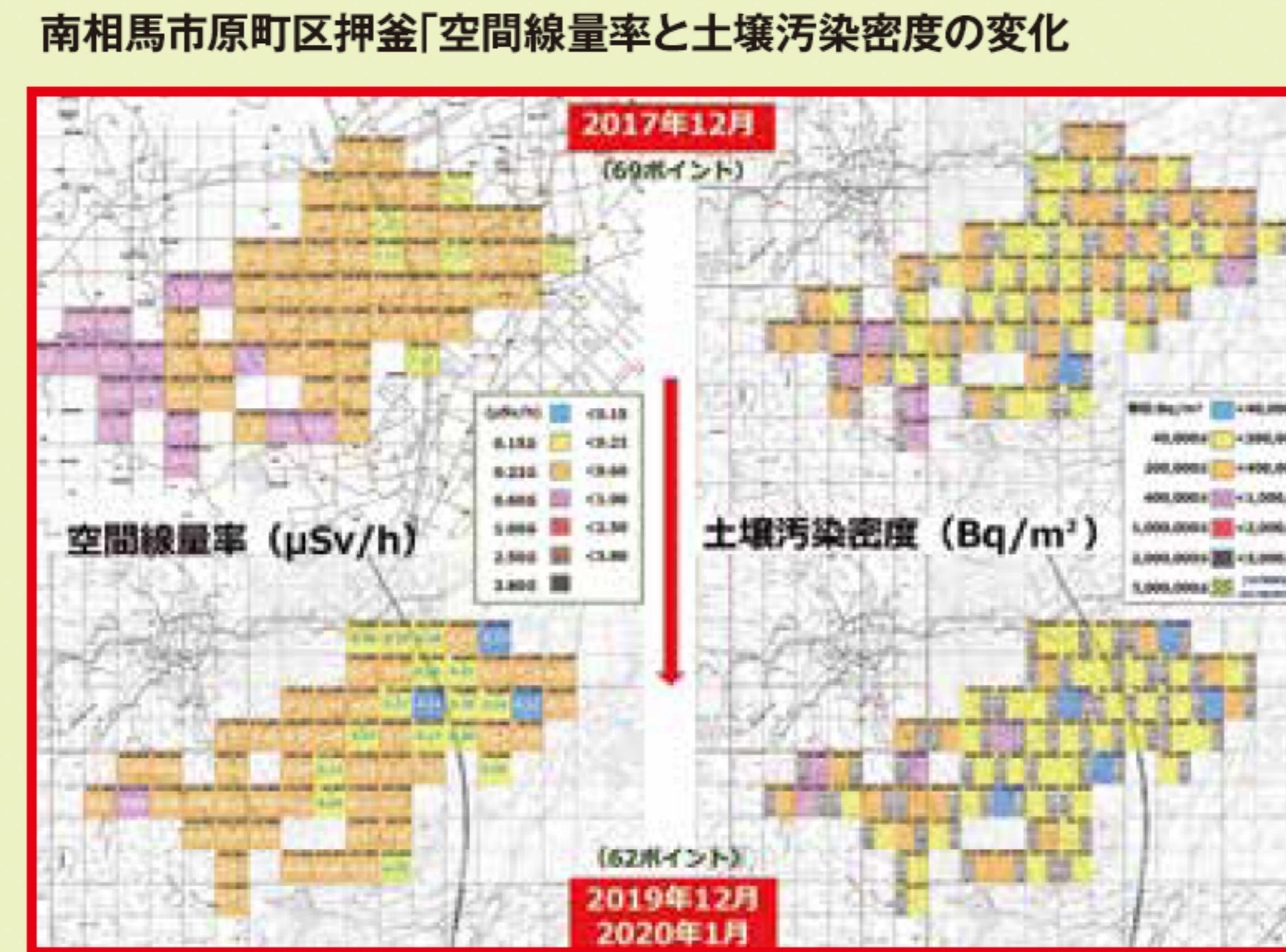
## \* 川内村 (NPO法人昭和横丁)

- ・福島第一原発から20~30km圏内に位置する川内村。村民の多くは仮設住宅(郡山市内)に避難しました。震災前は、村全体が農業の盛んで実り豊かな地域でした。しかし、原発事故後、仮設暮らしでは自分たちで米や野菜を作ることもできなくなってしまいました。
- ・帰還するまでの生活は厳しく、賠償金はなくなり、年金や貯金を切り崩していました。原発からの距離の僅かな差で賠償金の出る人と出ない人がいる、また、お金の貸し借りなどもあり、人間関係も厳しくなっていくこともあったということです。
- ・仮設住宅の自治会長だった志田さんは、週2回野菜や総菜の提供を行ってきました。それが2014年から3年間続いた「横丁市場」です。地域コミュニティーの場として高齢者の集う場にしてきましたが、2017年3月末で閉鎖、役目を終えました。現在は、帰還者が買い物できるように村に「横丁市場」をつくり運営しています。
- ・共生地域創造財団では、志田さんの活動をサポートするために、キッチンカーの貸し出し、冷蔵庫設置やプレハブを支援。地域コミュニティーとして活性化するように今後も見守り続けていくことにします。



## \* 葛尾村 (NPO法人葛力創造舎)

- ・福島第一原発事故前は約1500人が生活していましたが、事故で全村民避難となり、2016年に解除。現在の帰還者は約330人。(2020年2月1日現在)
- ・主な産業は、農、畜産、林業でしたが、それもできなくなってしまい、汚染土だけがたくさん残っている状態です。
- ・住民の一人「葛力創造舎」の下枝代表は、新たな村の再生に向け、帰還者の仕事作り、村外の人たちとの「第2の実家(ZICCA)」ネットワークつくりを進めており、2019年度は地域再生大賞優秀賞を受賞しました。
- ・グリーンコープでは、田植え、稻刈りを通じた交流を行い、収穫した米で作った甘酒「ノマツシエ」の応援販売や地域の女性たちの仕事として「郷土料理つくり」のため、厨房機器の設置支援を行っています。



ぽかぽかハウス

## ぽかぽかプロジェクト

- ・ぽかぽかプロジェクトは、福島に住む子どもたちに野外で安心して思いっきり遊んで、保養してもらうことを目的に線量の低い猪苗代のシェアハウスで年間8回~10回開催されています。
- ・保養する際に大切なのが「安心・安全な食べもの」。グリーンコープから米・青果・果物・びん牛乳等の食材をお届けしています。
- ・2012年4月GC(長崎)の支援から始まり、その後オールグリーンコープに引継がれています。現在もびん牛乳が一番人気で、新鮮で安心な食材は大好評です。
- ・毎回多くの親子が参加し、子どもの保養だけでなく、大人の保養、情報交換の場になっています。
- ・2013年~2019年末まで62回開催し、延べ1800人が参加しています。

## ひまわりプロジェクト

- ・ひまわりの種を撒いて収穫し、その種から搾った油を商品化して販売し収益を得るという、障がい者施設の仕事を福島第一原発事故が奪ってしまいました。
- ・それを知った全国の人たちが代りにひまわりの種を撒き、育て収穫し、収穫した種を福島に届け、子どもたちの保養支援も含め対応できるよう新たにひまわりプロジェクトの取り組みがスタート。それがNPO法人シャロームの活動です。
- ・グリーンコープは、2013年12月にNPO法人シャロームと出会い、ひまわりプロジェクトに参加。2014年からひまわりの種を福島に届けています。
- ・毎年年末に福島で開催される「ひまわり感謝祭」にはグリーンコープから組合員が参加しています。
- 2014年から2019までの実績  
・福島に送ったひまわりの種の総量…1035kg  
・ひまわり油「みんなの手」販売数…5751本(売上利益をカンパ)



### ひまわり大使 保養受け入れの取り組み

2015年…GCふくおか、GCくまもと  
2017年…GCくまもと、GC(島根)  
2018年…GCふくおか、GCおおいた  
2019年…GCやまぐち・ひょうご

### ひまわり感謝祭(12月)



山口の海で交流

### GCやまぐち保養支援



ひまわり畑で



ひまわりの収穫作業(GCふくおか)

### GCひょうご保養支援



3.11東日本大震災直後から、グリーンコープは緊急の支援物資を被災地へ送り届け、長期的な支援を続けています。9年を経て、グリーンコープが出会った宮城と岩手の被災地は、9年という時を経て、今では自らの努力と頑張りで元気に復興を果たせるようになってきているといえます。それに合わせて、共生地域創造財団の支援活動も被災地が主体となったものへとシフトし、地域再生への道を歩んでいます。

## 共生地域 創造財団の 支援活動

- ・岩手県大槌町や大船渡市、宮城県石巻市では、9年を経て、おおよその被災者がやっと仮設住宅を退去し、災害公営住宅へ転居しています。それに伴い、共生地域創造財団への行政からの委託事業はなくなっていくことになります。
- ・これまで在宅被災者や仮設住宅入居者や見なし仮設住宅への見守り訪問・相談支援を行い、生活物資の支援や生活や健康面などの不安に寄り添ってきました。
- ・行政からの委託事業がなくなても、震災からの真の復興・自立を果たしていくには、まだまだ支援は必要であると考え、今後も温かく見守っていくことにしています。
- ・一方、陸前高田市で「陸前高田市ユニバーサル就労支援センター」の運営が開始しました。

### 《見守り・訪問・相談件数》

- 大船渡事務所(スタッフ10名)  
2012年5月～2019年12月  
通算…10000件以上
- 大槌事務所(スタッフ5名)  
2017年4月～2019年12月  
通算…2263件
- 石巻事務所(スタッフ10名)  
2017年4月～2019年12月  
通算…5169件、1,587件
- 陸前高田事務所(スタッフ3名)  
2019年4月～12月  
通算846件



仮設受託から災害公営住宅への転居者見守り支援へ(大船渡・大槌・石巻各事務所)



「ひっこりーゼダイニング(夕食会)」  
(大槌事務所)



GCふくおか組合員による視察交流  
(石巻事務所)



一人ひとりに合わせた就労支援に  
取り組む(陸前高田事務所)

### 合同会社 みらい介護(宮城県亘理町) 高橋朝弥さんからのメッセージ

高齢者が増える中で、在宅での介護・看護を希望される方が多く、2017年2月15日に「みらい介護」を設立しました。現在は、訪問看護「すこやか」で看護スタッフ5名、リハビリスタッフ3名の計8名、訪問介護「みのり」でヘルパー7名、介護タクシースタッフ1名、ケアマネで4名、合計20名になりました。

東日本大震災後は大変な時期がありましたが、当時からの皆さんの温かなご支援でここまでやってくることができました。心より感謝申し上げます。

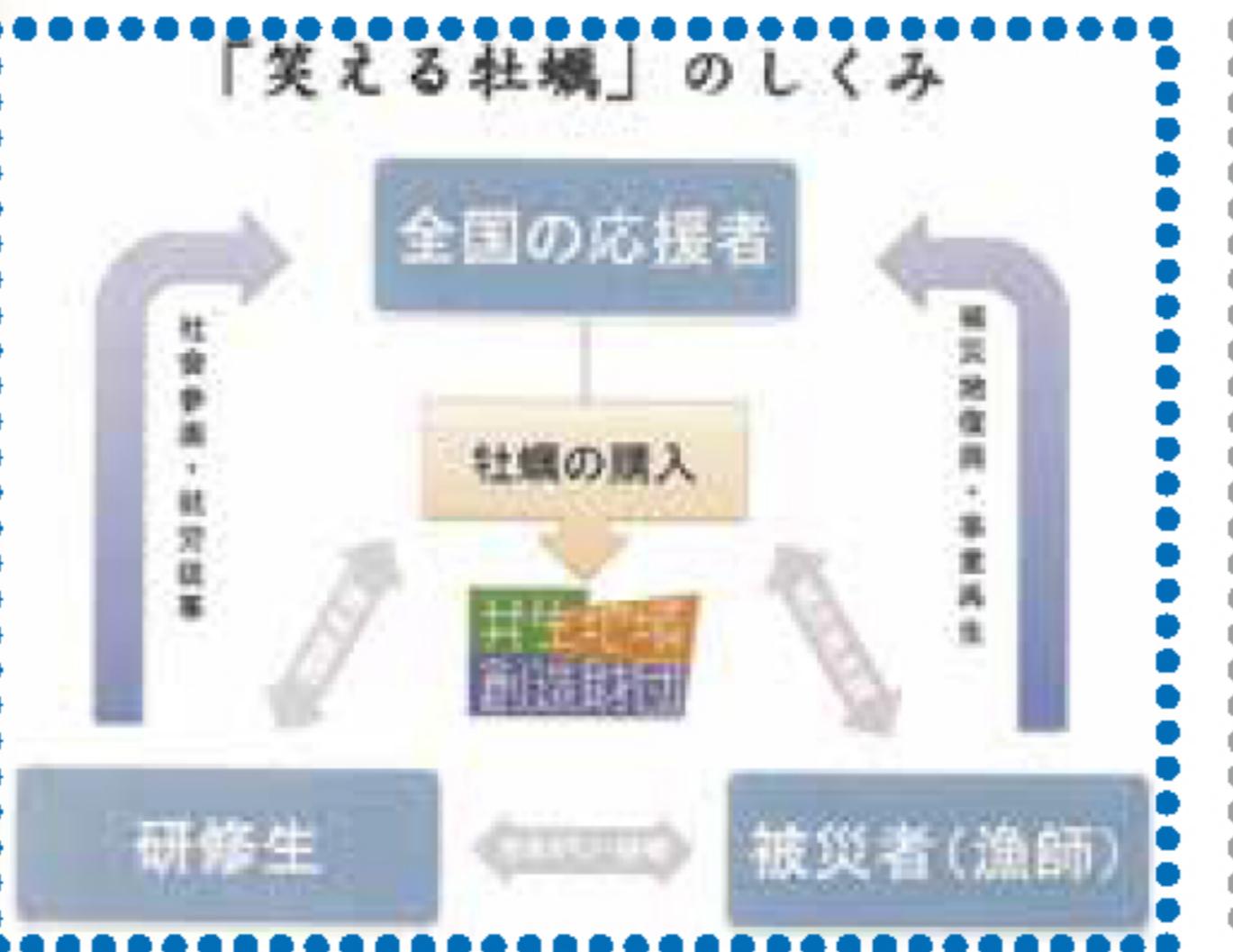
全国各地で自然災害の訃報を聞くたびに、あの日の震災の記憶が甦ります。震災の爪痕が消えていく被災地は今、高齢化、障害を抱える方々の新たな問題が顕在化しています。

みらい介護は、多くの人ととのつながりを大切に、これからも、この地域でお役に立てればと考えています。



## 折浜・蛤浜 …こんなに復興しました！

- ・震災後にすぐに物資支援を届け、人的支援とともに復旧へ向かってきた蛤浜は折浜との共同かき処理場をつくり、もう支援を必要としないほどの自立を成し遂げているといえます。
- ・2013年から就労訓練生の受け入れも定着し、浜は活気に満ちています。自然の影響はあっても、震災を生き抜いた力で浜の住民はとても元気に日常生活を過ごしています。
- ・復興のシンボル「笑える牡蠣」の出荷も順調のようです。



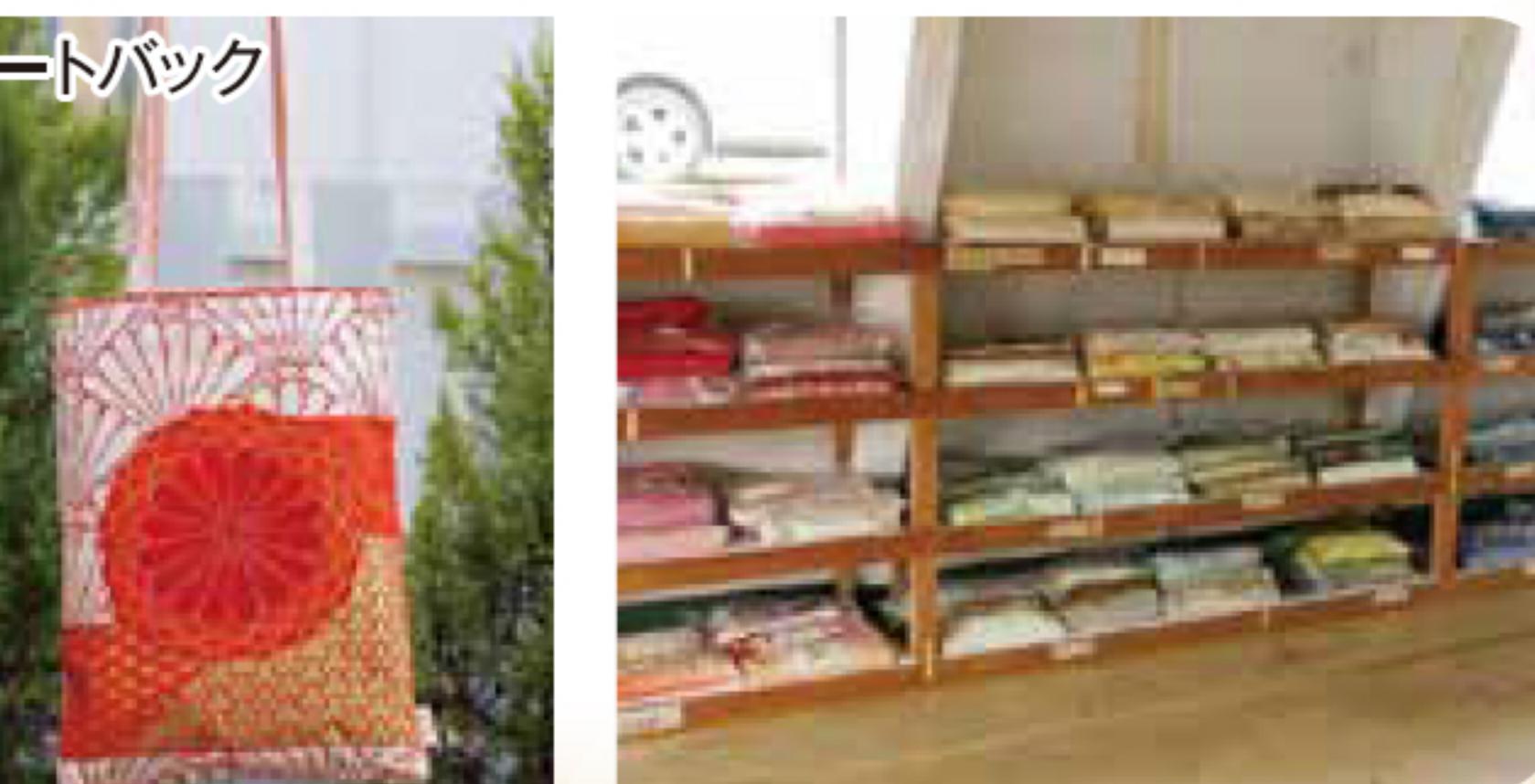
今一浜は復旧・整備され、特産の牡蠣も戻ってきた!  
GC組合員も視察・交流に訪れる。

## 女川町「ゆめハウス」 進む被災者・高齢者の就労事業！

避難所での小さな子どもがいるお母さんが大変している状況を見て、「ママサポートーズ」を設立。子どもの一時預かり支援を行い、仮設入居後は高齢者の孤立防止、楽しみづくりを目的に、布草履づくりを始め、2013年12月に大津波で唯一残った倉庫を活用した「ゆめハウス」を開所され、現在では高齢者だけでなく、若者の仕事づくりや居場所づくりを軸に地域の中でコミュニティづくりをすすめています。また、他の被災地の支援活動も積極的に行ってています。



GCふくおか組合員による視察・交流



## WATALIS 地域のコミュニティーを大切にした事業展開!

- ・「WATALIS」は震災後に発足。古い着物生地を再利用した布巾着(FUGURO)や小物等の「手仕事」をつうじて、子育て中の女性には家計を支える一助となる収入づくりと生きがいづくり、高齢の女性は手仕事の指導を行うことで孤立しないよう、楽しい居場所づくりや交流の環を育んできました。
- ・2016年2月18日、「地域の人たちが気楽に集い交流がもっと深まる居場所」として「中町カレー」(コミュニティーカフェ)をオープンしました。
- ・「高齢者と交流を深め、地域の文化や記憶を若い世代に引き継ぐのが私たちの役割。また震災で散り散りになった住民のつながりを取り戻したい」と引地代表は話します。

震災直後  
ここから復興が  
始まりました!

# 「3.11」支援活動の歩み

2011年3月11日  
～2020年1月

## 2011年

- 3月** -14日から毎日支援物資を継続的に搬送開始  
-21日に組合員に支援物資提供の呼びかけ
- 4月** -蛤浜・亀山さんと出会い、浜の復旧作業スタート  
-地元の商品などの残留放射能検査の依託開始
- 5月** -避難所と仮設の両方に物資配布始まる  
-福祉Wco連合会によるボランティアを派遣。亘理・山元町での支援活動が始まる
- 6月** -組合員から寄せられた敷布団(600枚)と毛布等(2000枚)のクリーンニングを行い被災地へ搬送  
-蛤浜での家具解体と瓦礫撤去のため九州から重機を手配して作業にあたる  
-GC職員にボランティア募集。工場や蛤浜の瓦礫撤去、避難所・仮設への物資配送支援に入る  
-蛤浜に漁船(大分の方からの寄贈船)を搬送
- 7月** -山元町の介護福祉施設、デイサービスセンターで福祉Wco連合会のボランティア支援活動  
-GC職員ボランティア支援(牡蠣筏準備作業や高橋徳治商店や西光寺の泥出しが機械の清掃や墓石片付)
- 8月** -亘理の苅農家斎藤農園の瓦礫撤去支援開始  
-支援長期化に伴い常駐職員1人配置。公益財団化の準備開始
- 9月** -福祉Wco連合会から介護施設へ、GC職員が水産工場や物資搬送へ  
-仮設住宅への物資搬送強化  
-大船渡で仮設・在宅向け支援活動強化
- 10月** -GCに放射能測定室(測定機2台)を設置  
-毛布など配布会用物資を各被災地に配達  
-冬物衣料配布会開催(石巻、亘理で8回)  
-高橋徳治商店第2工場瓦礫撤去作業支援
- 11月** -被災地で配布会(亘理・大船渡・米沢・東松島)  
-福祉Wco連合会から介護施設へ、GC職員、物資配達・配布会・倉庫作業支援活動  
-11/1付、一般財団法人共生地域創造財団設立(以下、財団)
- 12月** -GCの取引先からクリスマスと正月用の餅やお菓子が届き被災地に配達  
-福祉Wco連合会から介護施設へ支援  
-組合員からの提供物資の布団・こたつ布団を被災地に配布  
-年末に冬物衣料配布会(山元、石巻、宮城野、女川、岩手)

## 2012年

- 1月** -福祉Wco連合会の6人が介護施設に、GC職員3人が被災地へ物資配達  
-大船渡市から財団に在宅見守り支援要請  
-食料・冬物衣料配布会を開催(山元・米沢で6回)  
-ゲルマニウム半導体検出器を設置
- 2月** -在宅被災・仮設の生活困窮者宅に卵などを配達  
-冬物衣料配布会を開催(山元・米沢で6回)  
-福祉Wco連合会から介護施設に、GC職員が被災地へ物資配達の支援
- 3月** -亘理町で農業復興のため加工用トマト作付支援開始
- 4月** -WATALIS事務所開所式  
-蛤浜に牡蠣筏用ロープ等資材支援

- 5月** -大船渡市から委託「見守り支援事業」スタート。被災者5名雇用  
-蛤浜では震災前の後の数まで復旧  
-女川「うみねこハウス」開所
- 6月** -亘理町と山元町の介護施設への人的支援終了。8月からのヘルパー養成2級講座準備開始
- 7月** -女川町の「うみねこハウス」にトイレを設置支援
- 8月** -山元町でヘルパー養成2級講座開講  
-GCから亘理の加工用トマト初収穫ボランティア支援
- 9月** -亘理の加工用トマト初収穫ボランティア支援  
-折浜・蛤浜「共同かき処理場」工事着手
- 10月** -内閣府より「公益財団法人」認証認可  
-加工用トマト収穫終了(125トン)、その後、白菜、大根作付け
- 11月** -大船渡市内4カ所にスクールバス停を設置
- 12月** -女川町・福島市・南相馬で物資配布会を開催

## 2013年

- 1月** -蛤浜で剥き牡蠣出荷開始
- 3月** -就労支援事業「笑える牡蠣」販売開始。同時に牡蠣出荷作業現場で就労訓練の試み開始
- 4月** -WATALISとうみねこハウスが法人化
- 5月** -うみねこハウスではイチジク定植の作業支援  
-亘理の農場でトマト3万本定植支援
- 6月** -GC応援企画の銀鮎漁場を代表理事視察
- 7月** -高橋徳治商店新工場落成式
- 9月** -介護初任者研修終了。27人が資格取得  
-うみねこハウス「コミュニティ農園」で唐辛子収穫支援  
-GCよりトマト収穫支援
- 10月** -蛤浜・折浜の牡蠣出荷スタート
- 11月** -亘理のトマト生産者へ生産奨励金を贈与
- 12月** -女川「ゆめハウス」落成式

## 2014年

- 2月** -ほかほかPJ食材支援開始
- 3月** -ひまわりPJ支援検討開始  
-亘理町逢隈児童館にサッカーボール贈呈
- 4月** -女川「ゆめハウス」のコミュニティ農園にイチジク38本を植樹支援
- 5月** -亘理町の御神輿復興祭への支援(丸子農園にGC葉子50人分贈与)  
-GCの組合員・施設・店舗で福島支援ひまわり栽培開始
- 7月** -ほかほかPJ視察訪問
- 9月** -福島県川内村と出会い、避難先の郡山南一丁目仮設への支援開始
- 10月** -福島NPO法人「シャローム」と女川「うみねこ」メンバーがGC地域運動交流集会で活動報告
- 11月** -財団保有のキッチンカーを川内村の仮設等で活用

- 5月** -GCからひまわりの種を福島に出荷(80kg)
- 12月** -ひまわり感謝祭におおいた理事長、ふくおか西地域理事長出席、福島を視察

## 2015年

- 1月** -亘理の斎藤農園の苅、震災後初出荷。GCでの販売支援
- 3月** -ほかほかPJへの食材支援
- 5月** -被災地支援ボランティア短期募集し、ふくおか・くまもとの職員が女川・石巻・福島で支援活動  
-財団の事務所が、名取市へ移転
- 6月** -財団のワゴン車両を川内村で活用  
-GC放射能測定器2台(NAIシングルレシヨン)を南相馬避難勧奨地域の間に寄贈
- 7月** -福島市の保育園「こどものいえ そらまめ」へGCの食材、毎週支援開始
- 8月** -「花見山を守る会」で桜植樹支援(各生協)  
-ひまわり子ども大使が糸島、柳川、熊本、小国町を訪問
- 9月** -財団、関東・東北水害被災地支援へ
- 10月** -蛤浜・折浜、シケで牡蠣(2年目)が殆ど海に落下
- 11月** -「亘理の真っ赤なトマトケチャップ」を1万本製造
- 12月** -蛤浜、折浜へ、災害見舞金贈呈  
-ひまわり感謝祭に組合員4人参加  
-牡蠣出荷作業で就労訓練生8人参加

## 2016年

- 1月** -福祉Wco連合会が「大震災から5年後の被災地を巡る訪問」を実施(参加者4人)
- 2月** -WATALISがコミュニケーションカフェ「中町カフェ」をオープン。財団が支援  
-ほかほかPJへの食材支援
- 3月** -GMOフリーゾーン全国交流集会inみやぎに参加後、「被災地を巡るオリジナルオブショナルツアーア」実施  
-「3・11東日本大震災五年後集会」  
-福島の保育園「こどものいえ そらまめ」閉園、GCからGCの食材やせっけんを支援  
-亘理の「土耕栽培の復興いちご」農家斎藤夫妻に各生協から応援メッセージ贈呈
- 4月** -大分の「浄土宗からの米一升運動」支援。  
福岡から仙台までの送達をグリーンコープが対応  
-大船渡市の在宅見守り、仮設相談支援事業受託
- 5月** -縁をつむぐ会が「設立二十周年記念行事被災地支援先を巡るメモリアルツアーア」実施(5/16~18・参加者26人)  
-花見山を守る会へ支援(GC全体で250本の桜を植樹)
- 6月** -ひまわりプロジェクトスタート  
-石巻事務所開設
- 8月** -台風10号被害地(岩泉町)に物資支援とボランティア派遣、町と県内のNPOの協働プロジェクトに参画(被災住民の生活再建相談支援サポート)
- 9月** -NPO法人昭和横丁の川内村のコミュニティ拠点(買物支援、見守り)作りへの支援(業務用冷凍冷蔵庫の貸し出し)
- 10月** -地域運動交流集会(12日)。花見山を守る会高橋代表が福島の現状と花見山の取り組み紹介

- 11月** -ひまわりの種を福島へ発送(40kg)  
-「花見山を守る会」のお正月向けの生花「梅」と「蠟梅」を内販企画支援
- 12月** -第1回「ともいき」シンポジウム~復興支援から困難者支援へにGCから10人参加  
-ひまわり感謝祭へ組合員4人参加。

## 2017年

- 2月** -復興応援企画(49号)
- 3月** -復興支援組合員カンパ  
-ほかほかPJへの食材支援
- 4月** -復興応援企画(4号)  
-ほかほかPJへの食材支援  
-宮城県石巻市被災者支援事業(仮設住宅対象)を石巻市から受託、開始  
-岩手県大槌町被災者再建支援事業を大槌町から受託。新規事業の受託に伴い岩手大槌事務所を新規開設。3人体制でスタート  
-岩手県大船渡市から被災世帯へのバーソナルサポート事業受託。仮設・見做し仮設・在宅被災者含めた昨年同様に今年度委託を受ける。10人体制で対応
- 5月** -ひまわりPJでひまわりの種巻き  
-グリーンコーブで21908粒の種を撒いた  
-ほかほかPJへの食材支援  
-岩手県大槌町の仮設住宅全戸へ事業案内・周知のためのチラシを投函
- 6月** -復興応援企画(13号)  
-ほかほかPJへの食材支援  
-岩手県大槌町の仮設住宅入居期限について行政主催の説明会に同席。参加者からの相談開始
- 7月** -岩手県大槌町の再建支援会議の定期開催を開始。共生地域創造財団主催で行政と社会福祉協議会を交え仮設住宅に残る懸案世帯への支援方針検討の場として開始
- 8月** -復興応援企画(22号)  
-ひまわり大使8人来訪(保養)(くまもと・島根)  
-福島ほかほかプロジェクト(南房総)への食材支援。8月11日~17日で開催され、25人の親子が参加  
-「被災地から考える社会保障フォーラム」(共生地域創造財団の主催)を開催  
-岩手県大槌町で年度末撤去予定仮設への重点巡回を開始(8月~11月まで)  
H29年度中に撤去予定の仮設団地を重点的に巡回し、全世界への転居計画の確認を開始
- 9月** -ほかほかPJへの食材支援
- 10月** -石巻事業拡大により共生地域創造財団の本部事務所、名取市から石巻市へ移転  
-宮城県石巻市の仮設住宅の伴走支援に見做し仮設も加わり、伴走型被災者支援事業として石巻市から新たな委託を受け体制を3人から10人とし運用開始

## 2018年

- 1月** -「笑える牡蠣」(蛤浜新浜の牡蠣)を出荷開始  
-ほかほかPJ食材支援
- 2月** -折浜・蛤浜での就労訓練生による牡蠣の出荷開始  
-復興応援企画販売  
-特定営利法人アースウォーカーズ福島支援PJへの活動資金支援
- 3月** -組合員カンパ募集チラシ配布  
-ほかほかPJ食材支援(2回)  
-福島、宮城県へのふくおかの組合員による視察交流訪問(第1弾、第2弾)(南相馬市、浪江町、富岡町、

- 岩手県大槌町での仮設住宅の目的外入居者への支援活動を開始。UJターン者など被災者以外の仮設入居者も支援対象

## 2019年

- 1月** -「笑える牡蠣」(蛤浜新浜の牡蠣)を出荷開始  
-ほかほかPJ食材支援
- 2月** -折浜・蛤浜での就労訓練生による牡蠣の出荷開始  
-復興応援企画販売  
-特定営利法人アースウォーカーズ福島支援PJへの活動資金支援
- 3月** -組合員カンパ募集チラシ配布  
-ほかほかPJ食材支援(2回)  
-福島、宮城県へのふくおかの組合員による視察交流訪問(第1弾、第2弾)(南相馬市、浪江町、富岡町、

- 内村、葛尾村、福島市、石巻市、女川町)  
-名取市閑上追悼集会への絵灯籠の繪のお届け

- 4月** -ほかほかPJ参加のお母さんを招いての座谈会(ふくおか)  
-福島県と宮城県へのふくおかの組合員による視察交流訪問(第3弾)  
-除染土再利用反対署名  
-南相馬避難勧奨市地域の会への寄贈の放射能測定器メンテナンス支援  
-大船渡市災害公営住宅コミュニティサポート事業を開始
- 5月** -葛尾村で田植え(組合員3名参加)  
-ほかほかPJ食材支援  
-福島のお母さんを招いての報告会(ひろしま)

- 6月** -ひまわり作付(127カ所)  
-葛尾村「みんなの第二の実家をつくりたい」JP支援  
-陸前高田市ユニアーサル就労支援センターの運営開始  
-えひめ伴走型支援助成事業(西日本豪雨支援の助成支援)開始
- 7月** -ひまわり大使登場(ひろしま、やまぐち、ひょうご)  
-ほかほかPJ食材支援  
-大槌事業所で「ひまわりゼイタイング(夕食会)」開始  
-熊本伴走型支援助成事業(熊本地震支援の助成支援)開始

- 8月** -ほかほかPJ食材支援  
-はっぴーあいらんど保養企画/食材・機材支援(北九州市若松区)  
-復興応援企画販売
- 10月** -葛尾村で稻刈り  
-福島のお母さんを招いての報告会(かごしま、おおいた)  
-ひまわりの種収穫(127カ所からの469kgを福島へ届けた)  
-台風19号被害による岩手県(宮古市、山田町)、宮城県(丸森町、女川町)、福島県(福島市、相馬市、いわき市)への物資支援開始  
-新たに陸前高田市生涯現役促進地域連携事業を開始  
-新たに石巻市地域包括化推進業務を開始

- 11月** -ほかほかPJ食材支援  
-復興応援企画販売  
-川内村昭和横丁への朝市・昼場所用プレハブ設置支援  
-ちくりん舎(NPO法人市民放射能監視センター)への放射能測定器修理費用支援  
-台風19号支援として岩手県山田町にて炊き出しを実施
- 12月** -ひまわり感謝祭参加(2名の組合員が参加)  
-子どもの保養支援カンパ金をNPO法人シャロームへ贈呈

- 2020年**
- 1月** -ほかほかPJ食材支援(2回)  
-台風19号災害義援金贈呈(蛤浜、コミニティスペースうみねこ)(山長連携・サンスイ、まるたか水産)  
-修繕カンパちくりん舎  
-メンテナンス支援(ふくいち)

放射線が高い  
ところがあります

浪江町(期間困難地域)

114号線



南相馬市



葛尾村

## 放射能の影響は大丈夫?

今年3月26日～28日、東京オリンピックの聖火リレーが東京電力福島第一原発事故で避難指示が出されていた市町村がルートに!

さらに、全村避難が続く双葉町は、3月4日に一部地域で避難指示解除予定で、そこが聖火リレーのルートとなるようです。

### 9年経った今の被害状況

#### 人的被害状況

	死者	行方不明者		死者(前年度差)
岩手県	4,675人	1,112人		岩手県 469人 (2)
宮城県	9,543人	1,217人		宮城県 928人 (0)
福島県	1,614人	196人		福島県 2,286人 (36)
計	15,832人	2,525人		計 3,683人 (38)

(2019年12月9日現在 警察庁発表) (2019年9月30日現在 復興庁発表)

#### 震災関連死者数

#### 避難者数

	県内			県外			2019年12月 避難者合計
	2011年12月	2019年12月	差	2011年12月	2019年12月	差	
岩手県	43,953	1,906	42,047	1,536	985	551	2,891
宮城県	122,557	1,373	21,184	8,603	4,010	4,593	5,383
福島県	95,200	10,534	84,666	59,464	31,104	28,360	41,638
計	261,710	13,813	247,897	69,603	36,099	33,504	49,912

(2019年12月9日現在 復興庁発表)

皆さんからのカンパは、  
被災地の方たちの自立  
ための原資として使われます。

(2019年12月20日現在)

カンパ金総額	328,582,886円
財団へのカンパ金総額	183,000,000円
独自支援費用	92,853,910円
残 金	52,728,976円

GREEN東日本大震災復興応援企画にも  
たくさんの支援をいただきました。

12億4123万9870円

2019年12月20日までの総合計

### 共生地域創造財団 連携団体一覧

No	団体名称	活動エリア
1	NPO法人ワンファミリー仙台	仙台市
2	NPO法人仙台夜まわりグループ	仙台市
3	NPO法人萌友	仙台市
4	一般社団法人バーソナルサポートセンター	仙台市
5	NPO法人キャットミント	名取市
6	一般社団法人WATALIS	亘理町
7	デイサービスえん	亘理町・山元町
8	合同会社みらい介護	亘理町
9	特定非営利活動法人亘理いちごっこ	亘理町
10	一般社団法人 チーム王冠	石巻市
11	折浜・蛤浜	石巻市
12	カフェはまぐり堂	石巻市
13	NPO法人Switch	石巻市
14	ユースサポートカレッジ石巻NOTE	石巻市
15	いしのまきNPOセンター	石巻市
16	一般社団法人コミュニティスペースうみねこ	女川町
17	NPO法人ふうどばんく東北AGAIN	宮城県全域
18	NPO法人昭和横丁	福島県川内村
19	NPO法人シャローム	福島市
20	一般社団法人葛力創造舎	福島県葛尾村

### 財団評議員、理事名簿

	氏名	
理事	奥田 知志	NPO法人 ホームレス支援全国ネットワーク 代表理事 NPO法人 抱樸 代表理事 日本バプテスト連盟 東八幡キリスト教会 牧師
	立岡 学	NPO法人ワンファミリー仙台 代表理事
	渡部 孝之	生活クラブ事業連合生活協同組合連合会 常務理事
	齋島 一匡	共生地域創造財団元事務局長
	片岡宏明	グリーンコープ共同体 専務理事
	村上省三	グリーンコープ連合会 専務スタッフ
	小田広之	グリーンコープ連合会 専務スタッフ
監事	林 洋一	生活クラブ生活協同組合東京 常務理事
	江戸良子	グリーンコープワーカーズ連合会 理事
	加藤好一	生活クラブ事業連合生活協同組合連合会 代表理事
	福岡良行	生活クラブ事業連合生活協同組合連合会 専務理事
評議員	森松長生	NPO法人 抱樸 常務理事
	安江鈴子	NPO法人 ホームレス支援全国ネットワーク 理事
	熊野千恵美	グリーンコープ共同体 代表理事
	西村大輔	グリーンコープ連合会 専務理事

### 共生地域創造財団とは

【目的】生命をもっと大切にすることを原点に、人と人との助け合い、支え合い、補い合う共生の地域作りをとおして、支援を必要とする人々の自立に寄与することを目的とする。

【事業】目的を達成するために、以下の事業を行う。

(1)災害被害者支援事業 (2)生活困窮者支援事業 (3)上記の目的に類する事業を行う団体に対する助成事業 (4)その他前条の目的を達成するに必要な事業

### 共生地域創造財団の活動にご協力を!!

七十七銀行 八本松支店 普通5252326 口座名:公営法人共生地域創造財団(一般カンパ)  
郵便局 郵便振替:02250-6-126459

共生地域創造財団の支援活動、組織の経費は、全国のみなさんの寄付やカンパで賄われています。多くの方の応援をお願いします。

(2020.3.作成)